



現場から（最近のニュースから）

ほんとうに当たり前？



世の中はどんどん変化しています。科学が発展して、便利になっていますが、いままで体験したことのない自然災害や異常な現象が起きることもあります。しかし、多くの人は、自分が生まれ育って学んできた「当たり前」のことに縛られて、変化に応じて更新していくことが苦手です。それは、自分の中にある「当たり前」があることに気づいていないからだという記事がありました。一部を紹介します。

自分は何を“当たり前”と感じているのか、それはどのような経験に基づくのか——。このことを認識していないと、同じ失敗を繰り返したり、不用意に他人を傷つけたりすることにもなりかねないということです。それゆえ、自分の行動や考えを客観的に振り返り、そこで得た新しい気付きを次の行動に生かすためのアクションである「リフレクション」が必要だと、リフレクションの第一人者である熊平美香さんが語っておられます。

熊平さんによると、リフレクションは、反省とはちがうということです。反省は、「残念」「申し訳ない」というネガティブな感情が紐づいているのですが、それでは人は学べないということです。いまは、少し前の時代とちがって、正解やゴールがあって計画通りにすれば良いという時代ではなく「前例のない時代」に突入しているということです。それゆえ、感情や自分の考えに基づかないように、自分が大事にしている価値観や、他の人を見る時の判断の尺度を客観的に把握して、新しいものの見方を獲得する必要があるということです。そこで、自分の価値観や自分の判断の尺度を客観的に見るために、「なぜ自分はそう思うのか」を常に問いかければ良いということです。また、「人からどんな風にほめてもらったら、一番うれしいのか」と自分に問うて、「意見・経験・感情・価値観」において答えてみると、自分が大切にしている価値観が発見できると言われます。ただ、ひとりでの自分の「当たり前」を見つけることは、とても難しいので、他の人といっしょにしたらよいということです。「多くの場合、幼い頃に親や環境から植え付けられた価値観は根深く、強く感情と紐づいています。それが何か分かれば、必要に応じてそのものの見方を手放すことにもつながるでしょう」と言われています。そのように自分の当たり前に気づいて、その考えを手放すことによって、他の人の意見を「そういう考えもある」と共感して、新たな気づきを自分のものにしていくことができるということです。記事は最後に「家庭や仕事、子育てなど、物事がうまくいかない場合、環境や相手のせいにするのではなく、自分を振り返り見つめ直す」と心の中にヒントがあるかもしれません。」とありました。（9月7日 LIFULL〈なぜ、人は自分の中にある“当たり前”を疑えないのか | 21世紀学び研究所・熊平美香〉より）

自分が当たり前と思っていることが、ほんとうは当たり前のことではないと気づき、他の人のことも尊重して理解していくことができることは大切です。しかし、自分が自分を見つめていたら、結局、自分の枠の中からは出られないのです。まったく違う立場から、客観的に自分を見るにはどうしたら良いのでしょうか。客観的に見るには揺れない基準が必要です。変わらない基準の中で、当たり前から出て、自分を新しく見ることをいっしょにしてみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみ的人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください